

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

廃校は、増加傾向にあるが、活用されている割合は高いことが示されており¹⁾、「千葉子どもセンター」²⁾、「小規模多機能ホーム雪つばきの里」³⁾「旧沢石小学校交流施設」³⁾等、福祉用途での転用事例も見受けられる。また、「人とつながり、まちを元気にする」をコンセプトに、コミュニティナースが地域の人々の身近な存在として心身の健康と安心を実現するありかたを活かした、地域の問題解決とコミュニティ作りを行う活動⁴⁾が把握できた。これらの背景から、本研究では、コミュニティナースが運営を行う廃校利用のカフェを事例に、廃校と福祉カフェの馴染みやすさをもたらす要因を明らかにすることを目的とする。

1-2. 本研究の位置付け

桐村ら¹⁾の、全国の廃校発生状況及び廃校施設活用の状況を整理し、有効な廃校施設活用の知見を得る研究、山田ら⁵⁾の、自治体各部署等へのアンケートの回答比較によって、福祉転用に関わる各団体の意識差などの実態等の研究等があり、これらの先行研究では、「廃校」と「福祉転用」の双方を結びつけた考察は、十分になされていなかった。

1-3. 廃校について

廃校数は年々増加し、平成元年以降 822 件が確認でき、そのうち 68%が活用されている¹⁾。主な活用用途は、学校、社会体育施設、社会教育施設、企業や法人等の施設である。また、有田らの研究⁶⁾から、既存建物は地域に馴染みやすく、住民の理解が得やすいことが分かる。そのため、既存建物である廃校もこれに当たる。

1-4. 福祉転用について

先行研究から、地域住民にとっての親しみが福祉転用促進に有効な対策であることが明らかになっている⁵⁾。そのため、廃校を利用することは、福祉転用を行うために有効的だと言える。

1-5. 研究方法

廃校を活用して筆談カフェとして活動している、三重県いなべ市の桐林館喫茶室を対象施設とし、運営者(以下 A 氏)へのインタビュー調査、先行研究等の文献調査、イベントでのアンケート調査、いなべ市教育委員会への問い合わせによる質問やデータ収集等の方法で研究した。

2. 各概要と調査結果

2-1. 建築概要

2014 年に国登録有形文化財に登録された校舎は木造平屋建て、延べ床面積は、約 345 m²(建物全体)、活用部分が約 73 m²である。部分的な活用のため、簡易的な耐震確認としている点や、改修の際は、文化庁の許可が必要といった制約がある。転用前の建物は、3つの棟に分かれた形状であった(図 1)。1983 年に新校舎が完成し、従来の校舎は取り壊し予定だったが、建物存続の要望から、建物の中央部分(図 1 塗り部分)が敷地北側に移築保存され(図 2)、1983 年に文化資料保存施設「桐林館」として開館した。建物全体の所有は市の教育委員会で、間借りしている元職員室部分と、机や椅子は、桐林館喫茶室の運営者である A 氏が代表を務める一般社団法人 kinari(以下 kinari)が所有している。しかし、イベント時には、隣接の教室を借りて開催している。什器や内装については、福祉アートの展示スペースとして活用されているロッカーと、移築当時のままの照明であり、レトロで昭和初期を思わせる(写真 1)。カウンターや IH コンロ、ラック棚等の調理スペースは、補助金で増設された(図 3)。調理スペースと靴箱や窓枠等は、古い木造校舎や、照明等に合わせた雰囲気にする工夫が施されている(写真 2)。

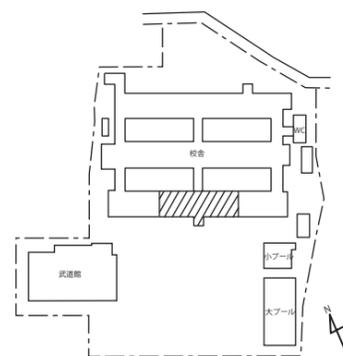


図 1 転用前配置図

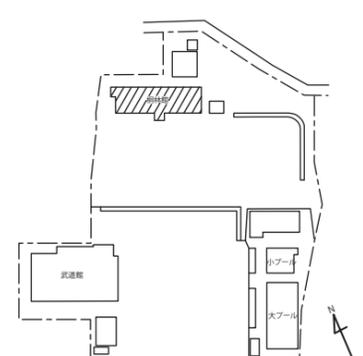


図 2 転用後配置図

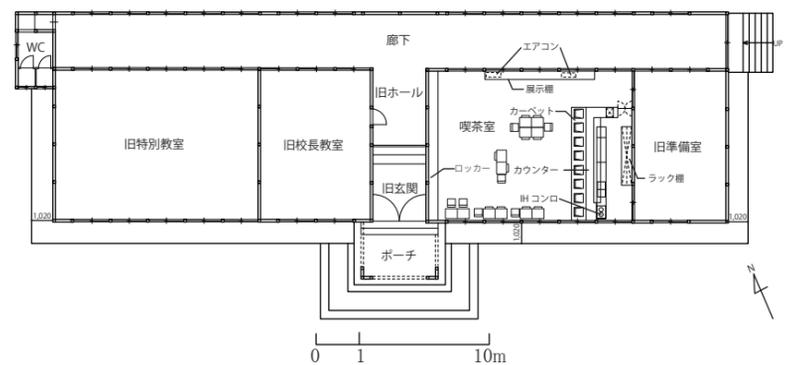


図 3 転用後平面図



写真 1 喫茶室照明



写真 2 靴箱

2-2. 運営者概要とカフェの変遷

対象施設の運営者であるA氏は、コミュニティナースであり、kinari 代表理事でもある。また、カフェは2017年に開業し、前運営者が地域おこし協力隊(商工観光課)の任期を迎えたことを理由に2020年に休業している。休業中は一度筆談イベントを行い、その後2020年に、以前サポートスタッフであったA氏のkinariと、地域おこし協力隊(社会福祉課)の運営で再開し、現在の筆談カフェとして始動した。

2-3. コミュニティナースについて

「人とつながり、まちを元気にする」をコンセプトに、地域の人々の暮らしの身近な存在として心身の健康と安心を実現するものであり、異なる専門性を持った人と共に自由なケアを実践するありかたである⁹⁾。また、A氏は、病院勤務、高校看護講師、カフェ等の趣味活動の中での健康相談等を経験した。その後、コミュニティナースを知り、養成講座10期生に参加し、現在の多様な活動に至る。また、繋がれる場所であり、コミュニティナースとして、ハブになる存在でありたいと話す。

2-4. 一般社団法人kinariについて

「障害や福祉のイメージをポジティブに」をコンセプトに⁸⁾、障害を持つ人達のアート(アール・ブリュイット)や表現活動のサポートを行っており、ドリップコーヒーのパッケージデザインを行うドリップアートプロジェクト、定期的なマルシェを行うキナリマーケット等がある。

2-5. キナリマーケット調査結果

イベントの出展者と来場者を対象としたアンケート調査を対象施設で行われるキナリマーケットにおいて、2023年12月15日に実施した。

社会福祉施設全体の印象は「親しみやすい」と思うかに、「とても思う」「少し思う」が合わせて42%(表1)、桐林館喫茶室は「親しみやすい」と思うかに、「とても思う」「すこし思う」が99%を占める(表2)。また、「表1,2のように思うのは、廃校であることが影響していると思うか」に、「とても思う」「すこし思う」が99%を占めた(表3)。さらに、「桐林館喫茶室に訪れるのは何回目か」に、「2回目」「3~5回目」「6回以上」が85%を占め(表4)、「複数回訪れている場合、「親しみやすさ」が影響していると思うか」に、100%が「とても思う」と回答していた。また、「コミュニティナースについて知っていること、印象、伝えたいこと(自由記述)」に、「地域のコミュニティに不可欠」「みんなの過ごしやすい世の中を作りたい」「コミュニティナースであるA氏の存在が大きい」の意見が確認できた。また、地域に馴染みやすく住民の理解が得やすい既存建物

(廃校)のメリットと、親しみは福祉転用の促進に有効であることから廃校は福祉転用に適していると言える。

表1 福祉施設全体の印象は「親しみやすい」と思うか

とても思う	3 (42%)
すこし思う	0 (0%)
わからない	2 (28%)
思わない	2 (28%)
全く思わない	0 (0%)

表2 桐林館喫茶室は「親しみやすい」と思うか

とても思う	5 (71%)
すこし思う	2 (28%)
わからない	0 (0%)
思わない	0 (0%)
全く思わない	0 (0%)

表3 表1,2のように思うのは、廃校であることが影響していると思うか

とても思う	4 (57%)
すこし思う	3 (42%)
わからない	0 (0%)
思わない	0 (0%)
全く思わない	0 (0%)

表4 桐林館喫茶室に訪れるのは何回目か

初めて	1 (14%)
2回目	0 (0%)
3~5回目	1 (14%)
6回目以上	5 (71%)

3. 結論

本研究により、廃校と福祉カフェとして利用されている「桐林館喫茶室」の馴染みやすさの理由として、以下4つを整理した。1つ目は、住民の記憶に残りやすく、学校を印象づける建物の中央のポーチ部分が利用されていること。2つ目は、照明や什器が当時の雰囲気に合わせてのものとなっていること。3つ目は、運営者であるA氏がコミュニティナースとして、地域の人々の暮らしの身近な存在として、人と人を繋げ、地域の取り組みの架け橋として振る舞っていること。4つ目は、利用者は「桐林館喫茶室」に複数回訪れることで、空間に対して親しみやすさを感じることから、継続的なイベント出展が効果的であること。以上からコミュニティナースの存在が架け橋となり、廃校と福祉カフェの親和性を生み出すことができると言える。

4. 参考文献

- 1) 桐村喬(2016)「長期的な人口変動の分析への『全国学校総覧』の利用可能性」日本地理学会発表要旨集 第89号 105
- 2) 森一彦、加藤悠介、松原茂樹、山田あすか、松田雄二(2018)「福祉転用による建築・地域のリノベーション成功事例で読み解く企画・設計・運営」
- 3) 文部科学省(2023)「未来につなごうみんなの廃校プロジェクト廃校活用事例集」
- 4) 沼津市我入道稲荷町事業計画書「コミュニティナースがつなぐ我入道地域活性化事業」
- 5) 山田あすか(2018)「自治体所管部署へのアンケート調査に基づく福祉転用の実態と転用への評価の把握」日本建築学会計画系論文集 第83巻 752号 1843-1853
- 6) 有田一貫、寺内美紀子(2021)「長野市における既存活用型高齢者施設の室構成の変化」日本建築学会計画系論文集 第83巻 780号 381-389
- 7) Zhasuna(2022)「廃校利活用の事例研究-地域住民による運営を持続可能なものにするために」現代社会文化研究 第75号 37-54
- 8) 一般社団法人kinariHP <https://kinariiroiro.wixsite.com/website>
- 9) コミュニティナース <https://community-nurse.jp>
- 10) 桐林館(施設案内)施設案内 国登録有形文化財(建造物)桐林館 | いなべ市公式ウェブサイト (city.inabe.mie.jp)